

4月より新しい医師が赴任しました



循環器医師

武田 充史

今年度から外来診療をさせて頂くことになりました。循環器疾患は高齢の患者様がもつとも多い診療科の一つであり、生活習慣病の管理を含めた地域に根差した包括的な診療が必要と考えています。

地域医療に貢献できると考えています。

2月より外来に配属となりました。看護師の山下です。何かありましたら、気



診療内容

		月	火	水	木	金
午前	1診	総合内科	循環器内科	呼吸器内科 禁煙外来	総合内科 もの忘れ予防外来(予約制)	
	2診	院長 曾根	医師 武田	医師 大谷 医師 松本	院長 曾根	整形外科 医師 戸田
午後	1診	消化器内科	循環器内科	総合内科	脳神経外科	
	2診	副院長 石田	医師 武田	医師 岡本	医師 西本	整形外科
		脳神経内科	整形外科 ※14:00~15:30		整形外科 ※14:00~16:00	整形外科
		医師 前谷	医師 川本		医師 川本	医師 戸田

受付時間：8時45分～11時45分 13時15分～16時30分  
診療時間：9時00分～12時00分 13時30分～17時00分 完全予約制

発行者  
大野浦病院  
編集 外来

TEL：0829-54-2426



< 今月のコラム >



「妊婦にカロナール(アセトアミノフェン)は必ずしも安全ではありません」  
整形外科医師 戸田 克広

妊婦に対する解熱薬、鎮痛薬の中でカロナール(以下C)は最も安全な薬と信じられてきました。しかし、妊婦にCが危険であることが分かってきました。妊婦がCを使用すると胎児の在胎期間が短縮し、出生時体重が減少します。これはCに何らかの危険性があることを意味します。また、胎児が出生後に注意欠陥多動障害、自閉症、言語発達遅延、知能低下、喘息、男児での肛門性器間距離の短縮(不妊になりやすい)が起こりやすいことが報告されました。臍帯血(その緒内の血液)のC濃度と多動障害、自閉症頻度には関連があると報告もあります。Cを使用せざるを得ない発熱や痛みこそがそれらの原因だという意見もあります。学問的にはCが危険であるとは断言はできません。しかし、2019年に米国立衛生研究所は危険性があるかもしれないため妊婦への使用には注意が必要であるという警告を出しました。Cは妊婦に対して最も安全な解熱薬、鎮痛薬です。妊婦に高熱が続くことは胎児に悪影響があるため、Cにより解熱を試みる価値があります。危険性があるかもしれないというを知り、必要最小量、最短期間の使用にとどめた方がよいと思います。痛みの中で神経障害性疼痛にはCは無効です。無効にもかかわらずCが漫然と使用されることがあります。外傷時には通常は冷却で十分です。激痛の場合には使用せざるを得ませんが、念のために使用することは不適切です。